

課題・研究期間・評価	マルチプレックスリアルタイムPCRによる特定原材料（エビ・カニ）の検知 研究期間：H23～H25 評価：4（高く評価できる）	意見1	・従来法に比べて、感度、特異性、迅速性、費用対効果などの点でどのような優位性があるのか。
		対応	・現PCR法と比較した場合、複数項目のPCRを1つのチューブで測定でき、電気泳動などの追加的な操作も省略できるため、迅速性に優れた検出法になると考えている。
		意見2	・トロポミオシン以外にも、食品中に混入するおそれのあるアレルゲン検出に応用できるかどうか検討し、利用価値を高める工夫をしてもらいたい。また、意図しない水産加工品へのアレルゲン混入について、消費者に情報を正しく伝える必要がある。
		対応	・操作の煩雑さや偽陽性・偽陰性が生じる点から、エビ・カニでの検出系を確立し、確立後は、技術を応用し、小麦等他の項目についても検討したい。また、調査結果等の情報提供を行い、講習会等を通じて県民に還元するように検討したい。
		意見3	・検出精度は研究成果の県民への還元時に重要なアピール要素であり、具体的な数値目標などを設定して取り組んでもらいたい。
		対応	・精度に関しては、偽陽性等の出現数について数値目標を設定し、極力低減できるよう検討したい。従来法に比べ、迅速かつ正確に検査ができるようになることをアピールしたい。